2019
6·20
No.48

HANACO はなこ

HANA COMMUNICATION PAPER
https://www.fukuhana.jp/

【特集】
「一人一花運動」って なんしよーと？

◎ PICK UP FLOWER SHOP　あなたの街の花屋さん
◎ 市場長に聞く！！
◎ こうばい通信
◎ 福岡 花の慰霊祭
◎ 始動 よかもんカフェ × 県産花き展示

白を代表格に、黄色、ピンク、紫などさまざまな色の品種があるカラー。春から初夏にかけて開花時期を迎えます。

意外なことに花に見える部分は、花ではなく、仏炎苞（ぶつえんほう）というガクが変化したもの。中心の黄色い部分が花の集合体です。

「乙女のしとやかさ」「清浄」という花言葉をもち、とくに真っ白なカラーは、けがれのない美しい姿がシスター（修道女）のようだといわれます。

清楚さと気品を感じさせることからブライダルブーケとしても人気があります。

花嫁が持つラッパに似た形の花々は、幸せな未来へのプレリュードを奏でているのかもしれません。

国道264号沿いに建つ

当店はJR小倉駅から車で15分ほどの住宅街にあります。予約制の営業で、電話やSNSで注文を受けています。仕入は予約にあわせて花市場のネットを利用。基本的には店頭にはほとんど花を置いていないため、飛び込みのお客さんを逃すこともありますが、必要な量の花だけを仕入れることができるのでロスが減りました。さらにひと一つの注文に、よりていねいに対応できるようになったと思います。また、配達前には必ず現物の写真をEメールで送り、お客さんに安心して注文してもらえるように努めています。

最近は母の日や誕生日などの行事やお祝いのほかに、コンサートやイベント時にスタンドフラワーを注文するお客さんが増えています。やはり今も変わらず、花の需要はあると感じています。今後は普段あまり花に興味がない人たちへ、もっとアプローチしていく方法を考えていきたいですね。

▶クマやバルーンを使ったアレンジが目をひく。

▶バラやユリを使ったスタンドフラワー

FLOWER SHOP
HANAYA
（セリ番号　小倉339）

DATA
所在地：北九州市小倉北区霧ケ丘1-1-27
TEL：093-967-8783
営業時間：10:00～19:00
休み：日曜

こうばい通信

購買課より、おすすめの新商品や購買品の注文スケジュールの情報をお届けします

今後の注文商品スケジュール

	12月	11月	10月	9月	8月	7月
予約注文商品	農薬 鉢物用肥料	農機具フェア	資材 土壌改良剤	農薬 肥料	ビニール	資材 肥料 土壌改良剤
キャンペーン商品	サンカク袋	巻きセロファン 温風ダクト	輪ゴム 温風ダクト	出荷用スリーブ ガムテープ	サンカク袋	秋～冬播き種子 サンカク袋 播種用培土

始動 よかもんカフェ×県産花き展示

エレベーターを降りると、花々がお出迎え

花あふれるふくおか推進協議会は、5月20日（月）より福岡県庁11階「福岡よかもんひろば」にて「育てる　愛でる　感じる花展」と題したイベントを行っています。

イベント初日の5月20日（月）には、フラワーパフォーマンスグループ「伝巧館花」による花いけライブが県庁1階ロビーにて開催され、先着100名様に福岡県産のトルコギキョウの"輪束"をプレゼントしました。

イベントは7月12日（金）まで開催され、期間中は福岡の生産者グループや華道家、福岡女子高等学校の生徒さんなどにご協力いただき、週ごとに展示を変えながら各産地の花々を紹介していきます。また、会場では花きの展示だけでなく、ボックスフラワーや壁飾り「スワッグ」の製作を楽しむワークショップ、エディブルフラワーを使用したカフェメニュー、ステンドグラスや樹脂粘土などの花をモチーフにした作品の展示、ショップ販売などさまざまな形で来庁者の方々に福岡県産の花きの魅力を紹介し、「暮らしに花を取り入れる機会」をご提供する予定です。

［はなこ］6月号　2019年6月20日　発行
通巻　136号
● 発行・編集
福岡県花卉農業協同組合
〒812-0064
福岡市東区松田1丁目3番20号
TEL:092-621-6767
FAX:092-611-0139
Email:
info-fukuhana@ja.fukuhana.or.jp
https://www.fukuhana.jp
● 企画・印刷　有限会社 大進印刷
編集・（株）クロス編集事務所

HANACO はなこ

福岡 花の慰霊祭

ご献花ありがとうございました

4月17日（水）午前7時より、福岡県花卉農協と福岡花市場には、行政や花商、生産者、華道家、市場関係者など花に携わる仕事に就く約100名が出席。一年間自らの生活を支え、人々に癒しと潤いを与えてくれた花々に感謝の祈りを捧げました。

今年の慰霊祭は、JA糸島花卉部会様、JAたがわ花卉部会添田支部様、JAちくご南部花卉部会様、JA筑前あさくら様、JAにじ花部会様、JA福岡市北崎花き部会様、JAふくおか八女様、JAむなかた様、JA全農ふくれん様よりたくさんの献花を頂戴しました。いただいたお花で作られたフラワースタンドやアレンジメントは会場に飾られて神様をおもてなしした後、提供いただいた各部会から地域の保育園や小学校、市役所などに寄贈されました。

特集
「共創のまちづくり」の実現へ
インタビュー

福岡市一人一花推進課へ突撃！

「一人一花運動」ってなんしよーと？

一人一花推進課の皆さん

福岡市住宅都市局
花とみどりのまち推進部
一人一花推進課
課長　上原 真之さん

平成30年に福岡市ではじまった「一人一花運動」。名称の通り、市民や企業など一人ひとりが花を育てて、市内のありとあらゆる場所を花と緑でいっぱいにしようという取り組みです。目的や活動内容、今後の展望について、今年の4月に新設された福岡市一人一花推進課の上原課長に話をうかがいました。

福岡市は、コンパクトで住みやすく、人口や観光客も増加中。また、都市再開発プロジェクト「天神ビッグバン」などをはじめ、さまざまな場所でインフラ整備も進んでおり、元気なまちとの評価をいただいています。住みやすい街といわれる福岡の価値や魅力をさらに高め、「よりよい未来のまちづくりのためのツール」として着目したのが花でした。

きっかけは、平成27年に高島市長がアメリカのポートランドを視察したことです。ポートランドは先進的なまちづくりで世界中から注目を集めていて、「全米一住みたい街」といわれています。なかでも、市民や企業が主体となって花壇や緑地を管理している様子を見て、まちへの愛着度の高い福岡市でも、きっと同じように、花によるまちづくりが可能だと考えたのです。花は年齢や性別、国籍を問わず、誰もが楽しむことができる、いわば「究極のツール」です。暮らしの中に花があるだけで心が豊かになり、まちの魅力や価値につながると思います。「花で共創のまちづくり」をキーワードに福岡市民が力をあわせて取り組めば、花のまち「フラワーシティ福岡」が実現できると考え、「一人一花運動」をスタートさせました。

この運動は、大きく分けて「都心部」、「身近な拠点」、「民有地」の3つの場所で展開しています。「都心部」では、天神や博多駅などの大通り沿いに120か所のおもてなし花壇をつくりました。この花壇の維持管理費については一口20万円で企業からの寄付を募り、花壇には協賛企業名入りの特製プレートを設置する仕組みとしました。さまざまな企業に取り組みの主旨を説明して呼びかけたところ、おかげさまで現在156社からご協賛をいただいています。まちを彩るおもてなし花壇を見た他の企業からの「参加したい」という申し出も増えてきており、一人一花運動の輪の広がりを実感しています。

2つ目の「身近な拠点」では、市役所や区役所での花壇づくりのほか、公園や道路をはじめ、多くの人の目にふれる公共施設において、市民の皆さんが花づくりに参加できる「ボランティア花壇」制度をスタート。さまざまな市民団体がボランティアで花壇の手入れをしています。

また、「一人一花運動」に関連するイベントも開催しています。プロジェクトがスタートして2年目の今年の4月には、警固公園で「一人一花スプリングフェス」を実施。9日間で来場者数11万人を超える大盛況ぶりでした。目玉企画の「花と水のボタニカルアート」では、ペットボトルにビー玉を入れた特製花瓶に一輪の花を入れ、巨大なプールに浮かべた作品をつくりました。子どもから大人まで気軽に参加でき、さらに参加者には花をプレゼント。市民の皆さんと一緒に「生み出し（つくり）」、写真スポットとして「魅せ（かざり）」、最後はその花をプレゼントして「広がる（広げる）」仕組みにより、皆さんに大変喜んでいただきました。

「花と水のボタニカルアート」は人気のフォトスポット

「民有地」では、市民や企業などそれぞれ独自の花づくりが進んでいます。こういった花づくりに取り組んでいる会社や店との絆を深める「一人一花パートナー花壇制度」の登録を呼びかけています。

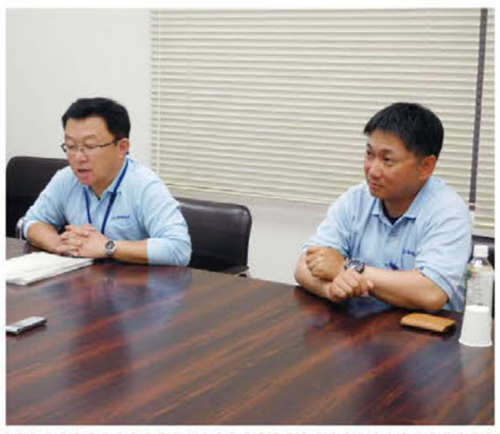
一人一花運動の始動1年目は、花を目にする機会や花づくりに携わる人の増加を目指した活動が中心でした。私たちの最終目標は街中に花や緑を増やすことだけではなく、「花による共創のまちづくり」の実現です。今後の狙いは、市民や企業の皆さんが、それぞれの花づくりを続けていくことができる持続可能な仕組みを増やしていくこと。多くの方々に花の価値や花づくりが生み出す心の豊かさを理解していただき、行政や花業界と、花づくりを行なう市民や企業、団体がうまくマッチングできるようにサポートしたいと考えています。

この取り組みの主旨に賛同してくれる花農家さんやお花屋さんがいらっしゃれば、ぜひ私たちに声をかけてください。「こんなことができますよ」という提案も大歓迎です。福岡市をよりよいまちにしていくため、それぞれの立場でできることを話し合いながら、一緒に取り組んでいきたいと思います。

季節の花々が彩り、街が華やか

市場長に聞く!!

新しい元号「令和」がスタートして間もない5月中旬、福岡花市場にて、福岡花市場の松丸信男市場長と北九州花市場の田中健司市場長に、それぞれの花市場の現状について話をうかがいました。



――まず前年度を振り返って、両市場の動向についてお聞かせください。

松丸　ひと言で言えば、夏までの前半が単価安、後半がどちらかといえば品薄で単価高の状況でした。6月は少雨でカラ梅雨だと思ったら、7月に入って西日本豪雨があり、関東から西日本を中心に記録的な猛暑、9月は北海道胆振東部地震が発生し、その後、非常に強い勢力の台風が複数上陸。関西国際空港の滑走路の大規模浸水などもあり、インフラに大きな被害が出ました。異常気象の影響もあって、夏から秋は荷物がそろわず、年末から年明けは暖冬傾向で前進が続き、今年の2月までは厳しい状況でした。3月も前進出荷でしたが、彼岸の需要期に入った後半から一気に相場が上がりました。選挙や婚礼などの影響で洋花も合わせて売れたので、年度末ぎりぎりになって相場が持ち直した感じです。

田中　北九州もほぼ同じ状況でした。3月は前年度に比べると洋花類、草花類が単価的によかった。とくに、ストックは暖冬によって前進したため、中旬から下旬にかけては不足気味でした。天候に左右されて入荷量が減ったということはありますが、全体的に年々出荷量が減少しているので、単価は少しずつ上がっています。

松丸　これまでは入荷量が減っても単価はそんなに上がりませんでしたが、近年は高齢化と後継者不足が進み、産地によってはほぼ全滅とか、以前作っていた花をまったく作っていない花農家さんも出てきています。このような状況には、お花屋さんも危機感を感じられているようです。安定した出荷があり、なお且つクオリティーの高い商品については、ある程度の値段で買い支えないといけないと。品質を重視して、日持ちのよい商品を求める声が多くなってきました。花屋さんにとって日持ちがいい花は、店に長く置けるし、ロスが少ないということになるからです。

松丸信男市場長

田中　生産量が減ってきて、入荷する品目のバランスが悪くなっているところがあります。とはいっても、作る量には限りがあるし、みんなが同じものを育てても売れませんし。組合員のみなさんには、作る品種や品目などを市場に相談していただきたいと思います。バランスのよい品種、品目を出荷していただくためには、市場側も生産者の現場に足を運ばなければなりません。お花屋さんに対しても同様です。これは、目下の課題ですね。

――母の日需要期の動向はいかがでしたか？

松丸　今年はゴールデンウイークが10連休で、正直どうなることかという心配はありました。ところが、お花屋さんによると従来よりも婚礼が多かったとのこと。平成の間にだとか、新元号になってすぐにだとかいう心理が働いたようです。とくにゴールデンウイーク前半の結婚式での花の需要は、過去2年よりも増えたと聞いています。また、郊外型のお花屋さんの売れ行きもよく、全体的に花はよく売れたようです。

田中健司市場長

田中　北九州もほぼ一緒ですね。10連休はちょっと不安なところもありましたが、婚礼需要と天候に恵まれて出荷量が多く、そしてよく売れました。カーネーションは国産も出て、単価も安定していましたし。鉢物のアジサイは消費者も毎年同じ品種はプレゼントしないようで、品種を変えていくことも大事ですね。今年はブルー系の人気があったようです。

――新元号になった2019年度の展望や抱負をお聞かせください。

松丸　今年度、福岡県花卉農業協同組合の新たな中期経営計画が出ました。その重点目標の一つが、福岡県の組合員さんを中心に、九州・山口の近隣の生産者の方々への対応強化です。先ほど田中市場長も申しておりましたが、人と人とのつながりだとか、対人関係の強化だとか、社会人そして職員としてのモラルだとか、そういったところのスキルアップですね。人と人のつながりを築くことで信用や信頼が生まれ、それが取引の向上につながる。原点に立ち返ろうという話は毎日のように職員にしているところです。

田中　産地や生産者の減少によって、お花屋さんそしてひいてはお客さんが求める花がそろわないことがないよう注力しないといけません。新規の花農家さんがでてくるためには、安定した収入が欠かせません。そのサポート体制について考えるのが僕たちの使命で、消費拡大も大切なことの一つ。福岡市では「一人一花運動」が推進されていますし、北九州ではウィークエンドフラワー、北九州花ロマン祭などのイベントを通して、生産者とお花屋さんが消費拡大のためにタッグを組んでがんばっています。

松丸　北九州は菊類がものすごく売れて、仏花が強いという地域色があります。生産量が減り、生産者の方々がどこの市場に出荷するかを決めるとき、市場の特色というのは大事になってきます。福岡県は全国で第4位の花の生産県で、福岡市、北九州市ともに大きな消費圏であり生産地とも近接しています。2つの市場の垣根を越えて、福岡県花卉農協としても入荷営業をしなければならないと思います。

――最後に組合員のみなさんへのメッセージを

松丸　組合員さんを中心に、いっそう職員も補助や生産地訪問を行います。そのときには、ご要望などを遠慮なくおっしゃってください。それを持ち帰ってお花屋さんに伝えたり販売戦略を考えたりするなどして、いい成果につなげていきたいと思います。

田中　職員にとって現場の方たちとのコミュニケーションは欠かせません。職員も有言実行でがんばります。福岡県花卉農協の目的は花を通じて「みんなが幸せ」になることです。この目的のために、お互いのつながりをもっともっと深めていきたいと思います。

――今日はお忙しいなか、どうもありがとうございました。